

2026年度・神奈川県学童大会開催要項

〔コントリビュートカップ 第49回関東学童軟式野球兼神奈川県学童軟式野球大会〕

1. 主催 (一社)神奈川県野球連盟
2. 主管 神奈川県学童野球連盟 ☎(携帯)090-4725-6265 伊藤 理事長
3. 共催 (株)コントリビュート
4. 後援 神奈川県・神奈川県教育委員会・(株)横浜DeNAベイスターズ・
(財)横浜野球友の会・神奈川新聞社
5. 協力 ナガセケンコー(株)・(株)共同写真企画
6. 会場 相模原ひばり球場・境川遊水地公園少年球場・相模三川公園
7. 開会式 令和8年2月22日(日) かながわ少年野球フェスティバル(横浜スタジアム)
8. 試合日程 令和8年6月6日(土)～各会場、決勝・閉会式：7月5日(日) 相模原ひばり球場
9. 出場資格
 - 1) 神奈川県に登録された小学生で編成され、各支部大会の優勝チームもしくは支部長推薦で本大会に出場可能なチームとする。選手登録は10名以上25名以内とする。
 - 2) チームは、監督30番、コーチ29番・28番、選手25名以内、チーム代表者、マネージャー、スコアラー各1名で編成する。ただし、監督・コーチは18歳以上とする。監督は、公認学童コーチ等の資格を保有すること。監督が資格を保有していない場合、ベンチ入りする者の最低1名が保有すること。
 - 3) ベンチに入る全員がスポーツ障害保険に加入し、大会期間中に起きた傷害事故等は、当該スポーツ障害保険の適用を受けること。
10. 適用規則
 - 1) 2026年版 公認野球規則
 - 2) 2026年版 競技者必携の中で、学童部に関する事項
11. 大会規則 不正出場、その他の規則違反については、全軟連規則に準じる。
12. 使用球 県連盟公認球・ケンコーボール J号 【大会本部で準備します】
13. 参加申込 **支部長の公印を受けた大会参加申込書と肖像権承諾書**を監督・主将会議で提出する。
14. 参加料 1チーム ¥20,000円を監督・主将会議で納入する。
15. 監督主将会議(抽選会) 監督・主将会議は下記により行う。**監督とユニフォーム着用の主将が必ず出席**すること。監督欠席の場合、コーチ(29番又は28番)・代表者の代理出席は認める。会議での決定事項はチーム全員に徹底させること。(規則書・競技者必携持参のこと)
 - 1) 日時 2026年5月31日(日) 午後6時00分～
 - 2) 場所 **かながわ労働プラザ 多目的ホール〔3階〕**
横浜市中区寿町1-4 ☎045-633-6110
17. 大会特別規則
 - 1) 試合は6回戦であるが、5回を終了すれば試合は成立する。5回終了前であっても1時間30分経過で成立し、新しい回に入らない。6回を完了して同点の場合、1時間30分を経過して同点の場合は直ちにタイブレーク方式で試合を決定する。
 - 2) 大会運営上タイブレーク方式を行わず抽選で勝敗を決定する場合もある。抽選はOX方式とし、Oの多いチームを勝ちとする。
 - 3) 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差、5回7点差とする。
 - 4) 試合が5回以前に中止になった場合、または5回を過ぎ同点で中止となった場合、翌日以降、特別継続試合を行う。打切りになったところから試合を再開する。
 - 5) イニング間や守備時間が目安の時間を経過した場合、給水タイムを設ける。給水タイムは試合時間に算入しない。
16. その他
 - 1) 参加申込書提出後は、選手の追加・変更及び背番号などの変更は、原則認めない。
 - 2) 試合のベンチ入りは、大会参加申込書記載の者・トレーナー(有資格者)1名・熱中症対策要員として保護者2名(ビブス着用)、までとする。
 - 3) 関東大会(第49回 関東学童軟式野球大会(コントリビュートカップ))出場は、**優勝チーム**とする。〔8月8日～予定 神奈川県〕

神奈川県大会開催要項

1. 大会適用規則

2026年版公認野球規則及び競技者必携の中の学童部に関する事項を適用する。

2. 試合開始、打順表と攻守の決定、ベンチに関する事項

チームは、試合開始予定時刻の60分前までには球場に到着し、大会本部から打順表を受け取る。神奈川県学童野球連盟ホームページから打順表をダウンロードして使用する場合は、本球場での試合では6部、それ以外では4部印刷し、試合当日に持参すること。

第1試合は開始予定時刻の30分前、第2試合以降は前の試合の2回終了時までに、打順表(登録された選手全員を記入したもの・選手名にふりがな)を大会本部に提出し、参加申込書と照合を受けた後、監督と主将が球審の立会いのもとに攻守を決定する。

- 1) 参加申込書提出後は、選手の追加・変更及び背番号などの変更は、原則認めない。
- 2) 遅れる、人数が揃わない、その他で試合開始予定時刻になっても試合のできる状態を取れないチームは、原則として棄権とみなす。
- 3) 前の試合が早く終了した場合には、次の試合の開始予定時刻前であっても、その試合を開始する場合がある。(前の試合が終了した後、20分を目安に次の試合を開始する)
- 4) 小雨の場合でも、球場の使用が可能な場合は試合を行うことがある。

神奈川県学童野球連盟大会開催案内 <http://kbbainfonew.stars.ne.jp>



- 5) ベンチ内での電子機器(携帯電話、パソコン等)の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。なお、指示用メガホンはベンチ内に限り1個の使用を認める。
- 6) ベンチは、組合せ番号の若いチームを一塁側とする。

3. 用具・装具

- 1) バットは全軟連公認のものを使用すること。ただし、打球部に弾性体(ウレタン、スポンジ等)を取り付けた一般用バットは使用を禁止する。
- 2) 打者・次打者・走者・ベースコーチは全軟連公認のイヤーフラップのついたヘルメットを着用すること。
- 3) 捕手は、全軟連公認のマスク・ヘルメット・レガーズ・プロテクターを着用すること。危険防止のためファウルカップを装着すること。(控え捕手も装着、女子は装着を推奨)攻守交代等に伴い捕手が用具着用中に、控えの選手等が準備投球を捕球する際は、捕手に求められる用具をすべて着用していない限り、立って捕球すること。(出場中の内野手可)
- 4) 同一チームの選手・監督・コーチは、同色、同形、同意匠のユニフォームを着用のこと。(選抜・連合チームは、背番号を同色、同形、同意匠とすること)ただし、スパイクを除く。また、金具の付いたスパイクは使用できない。
- 5) ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字又はローマ字による県名を必ずつけなければならない。また、都道府県に関連するものをつけることができる。
- 6) 監督・コーチ・選手以外はジャージ等長ズボン・スニーカーを着用すること。ユニフォーム・短パン・サンダル等の着用は不可とする。
- 7) サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、投手はミラーレンズサングラスは使用できない。また、野手がサングラスを帽子の庇に乗せることを認める。

4. 試合進行に関する事項

- 1) シートノックを行う場合は後攻チームより行い、5分間を限度とする。補助員としてコーチ(背番号29・28)を認める。ダートサークル内に入る補助員はヘルメットを着用すること。ただし、大会運営上、シートノックを行わず試合を開始することがある。
- 2) 次試合の先発バッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。
- 3) 申告故意四球は採用する。守備側チームの監督が審判員に故意四球の意思を伝えた場合、ボールデッドとし、打者はボール4個を得たときと同じように一塁へ進む。
- 4) 選手の肘・肩の障害防止を考慮し、1試合かつ1日の投球数は70球以内、1週間の投球数を210球以内(4年生以下は60球以内、1週間180球以内)とする。なお、試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃が完了するまで投球できる。ボークにかかわらず投球したものは球数に数える。タイブレークとなった場合、1日の投球数以内で投球できる。けん制球や送球とみなされるものは投球数としない。投球数の管理は大会本部が行う。
- 5) タイブレーク方式は継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者として、無死一・二塁の状態にして、投手の投球制限を遵守のうえ行う。なお、得点の記録は、合計得点とする。
- 6) 指名打者ルールを使用することができる。ただし、二刀流選手は採用しない。

5. 試合のスピード化・マナーに関する事項

- 1) 投手(救援投手を含む)の準備投球は初回に限り5球以内とし、次回からは3球以内とする。
- 2) 攻守交代はかけ足で行い、第三アウトが成立したら、プレーヤーは素早くベンチを離れ、守備位置に向かうこと。特にバッテリーは投球練習があるので、率先して行動すること。
- 3) 各回の先頭打者と次打者及びベースコーチはミーティングに参加せずただちに所定の位置につくこと。
- 4) 内野手間の転送球は一回りとする。(状況によっては中止することもある)
最後にボールを受けた野手は、定位置から速やかに投手に返球すること。
- 5) 投球を受けた捕手は、その場から速やかに投手に返球すること。捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏み投球姿勢をとること。サインを見るときは必ず投手板に触れて見ること。無用と思われる塁へのけん制が、度を過ぎれば注意を与える。
- 6) 投手は、ロジンバックを指先だけで使用し、丁寧に扱うこと。【大会本部で準備】
- 7) 打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。みだりに打者席を外さないで、サインは打者席内で見ること。
- 8) 次打者は、必ず次打者席へ入り低い姿勢または立った姿勢で待機すること。投手も必ず次打者席に入ること。投手が投球動作に入ったらスイングをやめ投球を注視すること。
- 9) 攻守交代時、最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
- 10) 走者は、ファウルボールが打たれた時は、かけ足で元の塁に触れること。
- 11) 捕手または内野手が、1試合に投手のもとへ行ける回数を3回以内とする。タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。
- 12) 監督が、1試合に投手のもとへ行ける回数を3回以内とする。タイブレーク方式となった場合は、1イニングに1回行くことができる。投手交代の場合は、回数に数えない。
- 13) 攻撃側のタイムは3回以内とし、タイブレーク方式の場合は1イニングに1回とする。
- 14) タイムは、1分以内を限度とする。
- 15) 試合中はみだりにベンチを出ないこと。投手の準備投球にあわせて素振りすることを禁止する。試合中、攻守交代時に、控え選手は、①ファウルグラウンドで外野方向へのランニング、②自チームの練習のベンチ前での見守り(但し、球審の「プレイ」宣告までにはベンチに戻る)、③ベンチ側の外野手とキャッチボール、をすることができる。
- 16) 次のイニングも引き続き投げる投手のベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、コーチスボックス外野角側からボール方向のファウルテリリーでの軽いキャッチボールを認める。2組4名以内とする。

6. その他の取り決め事項

- 1) ファウルボールは、一塁側のもは一塁側ベンチ、三塁側のもは三塁側ベンチ、本塁後方のもは攻撃側で処理すること。ファウルボールを捕りに行く選手は、ヘルメットを着用すること。
- 2) ノッカーにボールを手渡す選手、または野手からの送球をノッカー付近で捕球する選手及び外野手からの送球を補助する選手（中継者）は、ヘルメットを着用すること。
- 3) その回の先頭打者は、投手の準備投球が終わるまで次打者席で待機していること。次打者席には一人の選手しか入ることができない。
- 4) ベンチから無用と思われるサインは送らないこと。
- 5) 塁上の走者及びコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせることを禁止する。また、打者が投げ終わった球種を次打者他に知らせることを禁止する。
- 6) 投手が投手板に触れ投球位置についたら動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
- 7) いかなる状況であっても、ベンチ内の大人が、選手を委縮させるような言動を禁止する。選手に対する暴力、暴言、不適切な取り扱いを厳に慎むこと。
- 8) 選手や審判員に対する全てのヤジを禁止する。また、スタンドからの応援団のヤジおよび目に余る行為はチームの責任とする。
- 9) 対戦するチームの監督・コーチ・スタッフの皆様は、自主的にグラウンド整備を手伝うこと。

7. 熱中症対策に関する大会特別規則

- 1) 給水タイムに関する取り決めは以下の通りとする。給水タイムは試合時間に算入しない。
 - ・ イニング間の給水タイムは試合前に球審・両監督の打合せで決める。
(例：2回、4回終了後)
 - ・ 守備時間の目安の時間は約20分（状況によっては更に短くすることも可）とする。
 - ・ 「給水タイムに入ります」のアナウンス（又は球審の号令）で始まり、球審の号令で守備側選手がベンチを出た時に終了する。
- 2) 試合に出ている選手の代走（臨時代走者）が認められる場合、投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の打者とするが、捕手も除いても良い。
- 3) タイブレーク方式は継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者とするが、投手と捕手を除いても良い。

学童連盟の指針

「3プラス、1ない運動を」

☆3つのない・「あきらめない」・「くじけない」・「なげださない」

☆プラス1・「失敗を失敗に終わらせない」